

ぎ おんまつり
祇園祭や さかじんじや かくやまほちよう
八坂神社・各山鉾町

祇園祭はもともと祇園御霊会（ぎおんごりょうえ）と呼ばれ、その起源は平安時代にまで遡る。貞観11年（869年）、日本中に厄病が流行した際に、平安京の広大な庭園であった神泉苑に、当時の国の数にちなんだ66本の矛を立て、祇園の神を祀って厄災除去を祈願した。祭は次第に盛り上がりを見せ、室町時代には、各町に山や鉾が立つ現在のような姿になったと伝えられる。応仁の乱による中絶を経て、山鉾の装飾は豪華を極め、今日のような街を挙げての大行事になった。

祇園祭と聞くと宵山や山鉾巡行を思い浮かべるが、7月1日からひと月にわたって行われる八坂神社と山鉾町にまつわる祭事のすべての総称が祇園祭。各山鉾町で祇園祭の無事が祈願し、諸事の打ち合わせが行われる吉符入（きっぷいり）を皮切りに、17日の前祭、24日の後祭、そして31日の夏越祭まで、さまざまな行事が矢継ぎ早に続いていく。

1日～31日

八坂神社
京都市東山区祇園町北側625 | Map 001
市バス祇園停留所からすぐ

八坂神社御旅所
下京区四条通寺町東入南側貞安前之町 | Map 001
阪急京都線河原町駅から徒歩2分



2日

くじとりしき
鬨取式
きようとし やくしょまえ
京都市役所前

山鉾巡行の順位を決めるため、山鉾町の代表者が集まり、京都市長の立ち会いのもと鬨を取る。この行事は明応9年（1500年）、応仁の乱から祭りが復活したときに始まったもの。鬨取式後、各山鉾町の代表者は神事の無事を祈って八坂神社に参拝する。なお、長刀鉾のように古くから順番が決まっている「鬨取らず」と呼ばれる山鉾もある。

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 | Map 001
地下鉄東西線京都市役所前駅から徒歩 | 10時～ | 要申込



5日

なぎなたほちち ごまい ひろう
長刀鉾稚児舞披露
なぎなたほちよう
長刀鉾町

長刀鉾の吉符入りに合わせて、稚児が「太平の舞」を町内にお披露目する恒例行事。山鉾の中で唯一、人形ではない生（いき）稚児が乗る長刀鉾では、巡行の際に「太平の舞」と呼ばれる稚児舞で道を清め、疫病の退散を祈る。孔雀の羽根を飾った蝶蜻蛉の冠をかぶった稚児が、2階の窓から身を乗り出して優雅に舞う。

京都市下京区長刀鉾町 | Map 001
地下鉄烏丸線四条駅・阪急京都線烏丸駅から徒歩 | 15時30分頃～ | 観覧自由



10日・28日

みこしあらいしき
神輿洗式やさかじんじや しじょうおほし
八坂神社～四条大橋

神幸祭と還幸祭の神輿渡御に向けた神輿洗式は、神輿3基のうち祭神・素戔鳴尊を祀る「中御座」を清める儀式。列の前後に松明を点じて神輿を担ぎ、四条大橋の上で神職が神用水を振りかけて神輿を祓い清める。20時30分頃に八坂神社に戻り、神幸祭にそなえて三基の神輿が飾り付けられる。また、28日は神社に戻った後、神輿庫に収められる。

18時～ | 観覧自由



14日～16日（前祭）

21日～23日（後祭）

よいやま
宵山かくやまほちよう
各山鉾町

前祭の宵山では、祇園囃子が高らかに鳴り響き、歩行者天国となった街に露店が軒を連ねる。一方、後祭の宵山にはぎやかな前祭と異なり、露店もなく落ち着いた雰囲気、提灯に照らされた街並みが趣深い。また、前祭・後祭の宵山では、旧家や老舗が美術品や調度品を公開する屏風祭が盛んで、煌びやかな屏風をはじめ、着物や武具などの家宝が拝見できるのも祇園祭の楽しみのひとつ。

夕刻～ | 観覧自由



13日

くぜこまがたちごしゃさん
久世駒形稚児社参やさかじんじや
八坂神社

久世駒形稚児は、八坂神社と縁の深い綾戸国中（あやとくなか）神社の氏子の男児から毎年2名が選ばれ、17日の神幸祭と24日の還幸祭の神輿渡御で素戔鳴尊を祀る神輿の行列に伴って廻る稚児。御神体である馬の首を模した「駒形」を胸にかけた稚児は神の化身とみなされ、五位の位のある長刀鉾稚児や皇族でも乗り物から降りなければならぬ八坂神社の境内にも馬に乗ったままで入ることができる。

14時～ | 観覧自由



16日（前祭）、23日（後祭）

ひよりかぐら
日和神楽かくやまほちよう やさかじんじや おたびしよ
各山鉾町～八坂神社御旅所

前祭宵山の16日と後祭宵山の23日、囃子方がある山鉾町では翌日の好天と巡行の無事を願って、御旅所で祇園囃子を奉納する日和神楽が行われる。提灯を取り付けた屋台車に太鼓や鉦を吊るし、道中も祇園囃子を奏でながら行列は進む。2つの山鉾町がすれ違う際には、微妙に違う祇園囃子が重なり合い、大変風情がある。

夕刻～ | 観覧自由



17日(前祭)、24日(後祭)

17日 9時～、24日 9時30分～ | 観覧自由

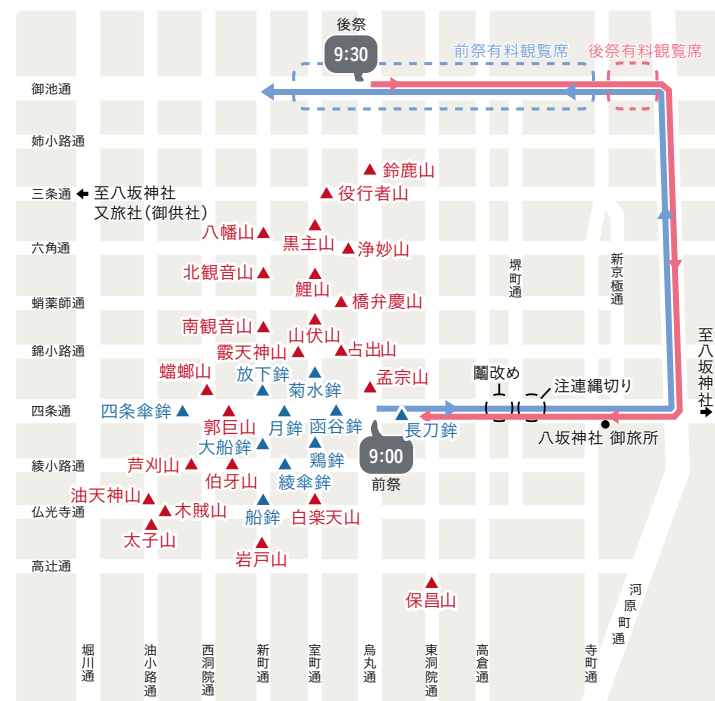
やまほこじゆんこう
山鉦巡行
しないうしんぶ
市内中心部

17日に行われる前祭の山鉦巡行は同日に行われる神幸祭の露払いの役割を担っており、鉦9基と山14基が市内中心部を巡行する。一方、24日の後祭の山鉦巡行も同様に、還幸祭の露払いとして鉦1基、山9基が、前祭とは順路を逆にして出発する。「動く美術館」とも呼ばれる山鉦は、国の重要有形民俗文化財、ユネスコの世界無

形文化遺産にも登録されており、細部まで芸術品に飾られた壮麗な山車の一種。巡行最大の見せ場は、鉦が通りの角を曲がる辻廻りで、人の背丈よりも高い車輪の下に青竹を敷いて水をまき、「ソーレ」「エンヤラー」の掛け声に合わせて曳き手の男衆が縄を引くと、鉦は装飾品を揺らしながらゆっくりと回転していく。



巡行マップ



前祭

- ・巡行…7月17日
- ・宵山…7月14～16日
- ・山鉦…長刀鉦、函谷鉦、鷄鉦、菊水鉦、月鉦、放下鉦、船鉦、岩戸山、保昌山、山伏山、占出山、霰天神山、郭巨山、伯牙山、芦刈山、油天神山、木賊山、太子山、白楽天山、綾傘鉦、蟬螂山、四条傘鉦、孟宗山

後祭

- ・巡行…7月24日
- ・宵山…7月21～23日
- ・山鉦…大船鉦、北観音山、南観音山、鯉山、浄妙山、黒主山、役行者山、鈴鹿山、八幡山、橋弁慶山

17日

しんこうさい
神幸祭や さかじんじや や さかじんじや お たびしよ
八坂神社～八坂神社御旅所

16時～ | 観覧自由

山鉾巡行を終えた17日の夕方、主祭神・素戔鳴尊、その妻・櫛稲田姫命、八人の子ども・八柱御子神をそれぞれ祀る3基の神輿が八坂神社を出発する。「ホイット、ホイット」という掛け声に合わせて、3基の神輿は氏子地域を渡御。八坂神社の石段下や交差点で行われる「差し上げ」「差し回し」では、担ぎ手により神輿が勇ましく担ぎ上げられ、回される。神輿は夜更けに御旅所に到着し、24日の還幸祭まで奉安される。



24日

はながさじんこう
花傘巡行や さかじんじや し ないしゅうしん ぶ
八坂神社～市内 中心部

10時～12時 | 観覧自由

山鉾巡行が一日に統一された際、後祭の巡行に代わるものとして始まった花傘巡行。後祭が復活したいま、山鉾巡行とほぼ同時に行われる花傘巡行は、より一層の華を添える。花傘が乗った傘鉾を中心に、子ども神輿や獅子舞、芸舞妓を乗せた曳き車など、約1000人の行列が通りを彩る。八坂神社に戻った一行は、最後に本殿前で獅子舞、六斎念仏など、さまざまな芸能・舞踊を奉納する。



24日

かんこうさい
還幸祭や さかじんじや お たびしよ や さかじんじや
八坂神社御旅所～八坂神社

16時～ | 観覧自由

夕刻、3基の神輿が御旅所を出発し、それぞれ神幸祭とは異なる順路を通って八坂神社へ向かう。途中、3基の神輿は八坂神社の境外末社・又旅社に立ち寄って神事を奉納した後に再び巡行をはじめ、八坂神社に還されるのは深夜になってから。灯りがすべて消された境内で、静かに還幸式が行われる。



31日

えきじんじや な ごしさい
疫神社夏越祭や さかじんじや
八坂神社

10時～16時 | 拝観料 500円

ひと月に及ぶ祇園祭の最後を締めくくるのは、八坂神社の境内摂社・疫神社の夏越祭。初夏の京都の風物詩である茅の輪くぐりの起源は、八坂神社の祭神・素戔鳴尊と蘇民将来という男の逸話に由来する。疫病流行の際、「蘇民将来子孫也」と記した護符を奉納する者は、疫病をまぬがれると誓約された故事から、鳥居に大茅の輪を設け、これを参拝者がくぐって厄気を祓い、「蘇民将来子孫也」の護符を授かる。



祇園祭の主な行事

1日～18日	きつ ぶ いり 吉符入	各山鉾町
1日	なぎなたほこちょう おせんど 長刀鉾町お千度	八坂神社
1日～9日	にかいばやし 二階囃子	鉾・曳山のある山鉾町
2日	くじとりしき 鬨取式	京都市役所
3日	しんめんあらた 神面改め	船鉾町
5日	なぎなたほこち ごまい ひろう 長刀鉾稚児舞披露	長刀鉾保存会
7日	あやがさほこち ごしゃさん 綾傘鉾稚児社参	八坂神社
10日	しんようすいきよはらいしき 神用水清 祓 式	四条大橋
	むかえしょうちん お迎 提 灯	八坂神社～京都市役所
	みこしららいしき 神輿 洗 式	八坂神社～四条大橋
10日～14日	さきまつり やまほこたて 前祭 山鉾建	各山鉾町
12日～13日	さきまつり ほこひきぞめ 前祭 鉾曳初	各山鉾町
13日	さきまつり やまかきぞめ 前祭 山昇初	各山鉾町
	なぎなたほこち ごしゃさん 長刀鉾稚児社参	八坂神社
	くぜこまがたち ごしゃさん 久世駒形稚児社参	八坂神社
14日～16日	さきまつり よいやま 前祭 宵山	各山鉾町
	さきまつりびょうぶ まつり 前祭 屏風 祭	山鉾町有志の町家
15日	いみたけたて 斎竹建て	高橋町
	みたらいいどびら 御手洗井戸開き	手洗水町
	でんとうげいのうほうのう 伝統芸能奉納	八坂神社
	よいみやまつり 宵宮 祭	八坂神社

16日	けんちやさい 献茶祭	八坂神社
	いわみかぐらほうのう 石見神楽奉納	八坂神社
	よいみやしんしんほうのうぎょうじ 宵宮神賑奉納行事	八坂神社
	さきまつり ひよりかぐら 前祭 日和神楽	各山鉾町～御旅所
17日	さきまつり やまほこじゅんこう 前祭 山鉾巡行	市内中心部
	しんこうさい 神幸祭	八坂神社～四条御旅所
	くじあらた 鬨改め	四条堀町
20日～21日	あとまつり ほこひきぞめ やまかきぞめ 後祭 鉾曳初、山昇初	後祭山鉾町
21日～23日	あとまつり よいやま 後祭 宵山	後祭鉾町
23日	あとまつり ひよりかぐら 後祭 日和神楽	各山鉾町～御旅所
	きよはらいしき オハケ清 祓 式	又旅社
	せんちやけんちやさい 煎茶献茶祭役	八坂神社
	ぎょうじゃやまごまた 行者山護摩焚き	役行者町
	みなみかんのんやま かのん 南 観音山あばれ観音	百足屋町
24日	あとまつり やまほこじゅんこう 後祭 山鉾巡行	市内中心部
	はながさじゅんこう 花傘巡行	八坂神社～河原町御池
	かんこうさい 還幸祭	四条御旅所～八坂神社
25日	きょうげんほうのう 狂言奉納	八坂神社
28日	みこしららいしき 神輿 洗 式	八坂神社～四条大橋
29日	しんじ すみほうこくさい 神事済奉告祭	八坂神社
31日	えきじんじやなごしさい 疫神社夏越祭	八坂神社